

資料1 玖須美地区の津波対策（課題と対応策）（第1回～第3回地区協議会のまとめ）

【1・2・3・4グループ】

第4回地区協議会資料
(平成29年3月6日)

分類	H27. 6. 2地区協議会（第1回）	H27. 12. 10地区協議会（第2回）	H28. 6. 14地区協議会（第3回）	考えられる対応策		
堤防整備	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港に大きい堤防がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・[現況高] 堤防はいらない 観光への影響が大きい ・[L1堤防高以下] 歩いて海が見えるように道路を含めて整備 ・[L1堤防高] 中途半端な高さの堤防は良くない やるなら7.5m ・[L1堤防高以上] せっかく作るなら高い方が良い ・松川河口に堤防高さと同レベルの水門を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>防潮堤のかさ上げはしないで、避難路整備やソフト対策の充実などで対応する</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・レベル1津波による浸水被害を防ぐための護岸整備（かさ上げ）は当面実施しないこととします。 ・海岸護岸のかさ上げをしないことから、河川（二級河川伊東大川・北川）の対策もしないこととします。 		
土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> ・避難する経路で土砂崩れがあり、高台に避難できない可能性があるかと心配されるのでは？ ・ガケ崩れ 			<ul style="list-style-type: none"> ・砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業の活用 ・土砂災害防止法による区域指定、警戒避難体制の整備 		
避難路 (避難路の安全性)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路の複数想定順序（年齢による） ・仏現寺の坂道は行けるのか 判断を間違えると間に合わない ・避難路の階段がもつか？和田湯に入れる？ ・道中、障害物があるのでは ・お年寄りに避難路を教える 訓練をする ・詰所からポンプ車を出す時に、人や車が多くなりませんか？ ・避難路が崩れるのでは ・避難途中の石垣が心配（妙法寺上） ・路面の形態が心配 ・市指定の広域避難場所に通じる道路の崩落が心配 ・避難場所までの道が、家屋や電柱が倒壊していて、逃げられるか心配である ・避難路が通行出来る状態かどうか？ ・浜新道が海からまっすぐ 早いスピードで津波が浸水してこないか ・住宅に近づかないよう、車両に気をつけながら自宅へ向かう ・避難路のガケ崩れ ・仏現寺 坂が危険で心配します ・避難路のうち、ガケ崩れの恐れがある ・避難経路の道路が安全か ・避難路の石垣がくずれる（神戸酒店横の階段） ・避難する通路がブロック壁に囲まれていて危険 ・落下物への注意 ・階段を登って逃げられるか ・大行寺の裏道は通れるか こちらを使うか、仏現寺の横か どっちが安全か… ・道路の石積みが崩れないか心配（仏現寺の所） ・外に出た時に、木や建物が崩れてこないか？ ・避難経路は通れるのか ・避難路を確認できているか ・避難するのに大きな道が少ない ・伊東は古い建物が多く道が狭いので、逃げる道はちゃんと確保できるのか？ ・避難する通路が狭い（人が一人しか通れない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・5本の避難路+国道 ・石積みが崩れるか確認 通路に民地が多い ・避難路の課題 ・避難路の整備が先・堤防は後 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路5本+国道 ・石積みの耐震性 ・通路が民地 	<ul style="list-style-type: none"> ・両サイドの崖の補強 ・寺への抜け道を抜ける ・警察の石垣補強 ・神社へのぼる階段の整備 ・階段が急 避難にははやい ・お寺の境内を通る ・人が1人通るのがやっと ・ある程度道幅のあるところ ・避難する時間がかからないところ ・民有地を避難路へしていく ・知っている人しか通らないところ ・急な階段をゆるやかにする ・仏現寺の石積 ・一番大きいので仏現寺の下の道を優先 ・メインルート=石垣が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会ごとに津波避難行動計画の作成をお願いします。 ・平成27年度中に配布した、津波ハザードマップで避難場所までの避難経路について、自身でシミュレーションしておくことが重要です。 ・大地震が発生した後しばらくは余震が続くことが予想されますので、余震によるブロック塀等の倒壊にも注意が必要です。 ・民地の石積みは市では整備できません。（所有者に依頼）。 ・材料（手すりのパイプ等）を支給することは可能です。 <ul style="list-style-type: none"> → <u>避難路の整備（急な階段の改良）(S-1-2)</u> → <u>避難路の整備（石積みの補強）(S-1-3) (S-1-5)</u> ・避難経路が倒壊等で通行できないことも想定し複数の避難経路を考えておく <ul style="list-style-type: none"> → <u>津波避難方向の路面表示等の充実 (S-2-1)</u> 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・街灯の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯 	<ul style="list-style-type: none"> ・照明(国) 1 3 5号 ・照明が必要 ・階段上から照らす外灯（バッテリー式） ・個人の街灯 うす暗い 	<ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯・ヘッドライトの備蓄 ・街灯の設置 <ul style="list-style-type: none"> → <u>街灯の新設及びLED化に対する補助(S-3)</u> → <u>街灯の新設及びLED化に対する補助(S-3-1)</u>

分類	H27. 6. 2地区協議会（第1回）	H27. 12. 10地区協議会（第2回）	H28. 6. 14地区協議会（第3回）	考えられる対応策
避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難ビルへ行くか、坂道を登るか（両方が近い） ・避難する方向がわからない ・避難場所が明確か？ ・指定されている避難通路は、津波に対し横に逃がれているので、通路としてはどうなのか ・避難経路の想定複数 ・高台に逃げる 家族の安否 ・10mラインがよくわからない 			<ul style="list-style-type: none"> ・津波浸水区域外への避難が原則ですが、間に合わないと判断したときは、津波避難ビルや倒壊を免れた高い建物に避難をしてください。 ・避難所の耐震診断等については、今後検討していきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高台・ビル等に想定以上の人が集まる恐れはないのか ・避難ビルに収容しきれぬのか？ 集中してしまう ・町内間で協力できる民間のビル等はないか？ ・避難所に人があふれないか 富士見（南中・南小） 			<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難困難地域が解消されるよう、津波避難協力ビルの指定数増加を図っていきます。 → <u>津波避難協力ビルの指定数増加（S-4-1）</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・和田湯会館の管理人がいない時 			<ul style="list-style-type: none"> ・夜間などに、避難協力ビルに避難する際に入口の開錠が必要となるビルについては、「地震開錠キーボックス」を、建物の所有者等の理解が得られれば、設置していきます。 → <u>「地震開錠キーボックス」の設置（S-4-2）</u> ・玖須美温泉会館、和田湯会館には今年度中に設置予定。
	<ul style="list-style-type: none"> ・公的Pに避難タワーを設置する 			<ul style="list-style-type: none"> ・避難タワー
避難 (近所への声かけ) (自助・個人の問題・家族) (安否確認・車・観光客の対応) (人の集中・経路)	<ul style="list-style-type: none"> ・全員逃げられない時、どこまで助けに行くか？ 危険を冒して助けに？ ・他の人に声をかけていて、自分が逃げ遅れないか？ ・隣の家の人は大丈夫なのか、声をかけてまわるべきか ・津波到達時間を考えると、自身が逃げるのが精一杯！ ・自分が落ち着いていられるか ・津波到達時間が短い（5分）場合は、避難仕度が出来ない！（特に夜間） ・津波てんでんこは東北の格言であり、真理と思うが、弱者の切り捨てとなる 心が痛む ・近所にいる高齢の身障者が、3. 11のときに迎えに行ったが、避難はしないといわれた ・道に人が集中していないか ・近所の被害状況 ・5分で逃げられる距離 年寄・子供・成人で想定 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命が先 ・安全対策確保できたら助ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jアラート、同報無線、メールマガジン、ラジオ等により情報収集をしてください。 ・発災直後は、自助、共助が必要となります。 ・家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。 ・情報を入手するまでには時間がかかるので、大きな揺れや長い揺れを感じた場合は、すぐに、避難してください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の所在 ・仕事中に起きると、家族が心配 ・家族の安否が心配 ・家族の安否 			<ul style="list-style-type: none"> ・安否情報は「災害用伝言ダイヤル171」を活用してください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客はどこに逃げていいかわからない ・観光客が避難できるか心配（地形を知らない） ・観光客の避難 駅へ集中 			<ul style="list-style-type: none"> → <u>津波避難方向の路面表示等の充実（S-2-1）</u>

分類	H27. 6. 2地区協議会（第1回）	H27. 12. 10地区協議会（第2回）	H28. 6. 14地区協議会（第3回）	考えられる対応策	
避難	<ul style="list-style-type: none"> ・国135号が渋滞し大混雑（音無交差点付近） ・3. 11に声をかけたマイカーではだめかといわれた ・車での移動・渋滞 ・車での移動中はどうするか？ 			<ul style="list-style-type: none"> ・乗り捨てた車両により、消防車等の緊急車両が通れなくなります。原則、徒歩で避難してください。 	
災害弱者 （お年寄・障害者・家族）	<ul style="list-style-type: none"> ・実家のおやじが心配です ・弱者を見捨てられるか 自信がない ・別の家にいる老人（母）をどのように連れて逃げるか 近所に大きなビルがあるので、そこに連れていけばよいか ・高齢者の避難 ・身体の不自由な方・高齢者の避難 ・高齢者・観光客の避難がむずかしい ・身体の不自由な方の避難援助が出来るか？ ・要介護者と共に避難出来るか？ ・高齢者の避難 ・子供やお年寄りが避難できるか心配である ・要介護者・身体障害者・高齢者 ・地域的にはお年寄が多い ・お年寄等の避難（階段も登れない） ・登り坂を、老人・小さい子供は時間内に避難できるのか ・避難道路の状況 障害者がいれば、車を使用したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者対策の充実を 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者対策 ・年配者の避難 ・高齢者 ・地域に若い人がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。 ・発災直後は、自助、共助が必要となります。 ・高齢者や障害者については、あらかじめ避難行動要支援者避難支援計画（個別計画）を作成しておく必要があります。 ・避難行動要支援者の対策については、共助によることとなりますが、まずは、自助（自分の命を守る）が優先されます。 	
家の戸締り 持ち出し物	<ul style="list-style-type: none"> ・いざ、家に居ると、あれもこれも持ち出したいくなりそう ・戸締りに気をとられそうです（雨戸とか閉めてまわりそうです） ・いざという時に、物より命を大切にできるか？ 			<ul style="list-style-type: none"> ・非常時持出袋を用意してください。 ・H28. 3に全戸配布した「総合防災ガイドブック」を参考にしてください。 	
家屋	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅が老朽の為、崩壊して避難可能か？ ・木造の家の倒壊が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策 		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和56年以前に建てられた木造住宅については、無料で耐震診断を行います。耐震補強費用の補助制度もありますので、市建築住宅課まで御相談下さい（TOUKAI-0による支援）。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の倒壊・火事 ・ガスの元栓を閉める 			<ul style="list-style-type: none"> ・電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めてください。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れが大きくても、このくらいなら逃げなくても良いのではと思ってしまいそうです（うちは大丈夫！とか思いそう） ・普段の情報提供が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に対する教育→学校、地域で ・災害の歴史を学ぶ→津波の碑が4箇所残っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害教育（学校・地域） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな揺れや長い揺れを感じた場合は、すぐに避難してください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫が流される ・防災資材の確保（小学校に） ・避難場所での食事等 ・ペット類をどうする 受入れ 		<ul style="list-style-type: none"> ・担架（竹と毛布）の用意 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域避難場所ではペットの同行避難を受け入れられるよう、施設管理者等と協議していきます。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・漁港の石油タンクの固定をお願いする（行政の力でできないか） 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港タンクの固定 	<ul style="list-style-type: none"> ・石油タンクは民間施設のため県または伊東市での対応はできませんが、水産庁の補助金を活用することができます（既存タンクの耐震補強および津波対策） 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・市 危機対策課の職員の情報の継続 ・啓蒙活動を行う←建物をつくるときのセットバックetc. 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・津波が終わったあとの片づけが大変 ・落ち着いた行動がとれるか心配である ・火を消す 避難ビルに登る 年寄りを連れていく ・怖いという意識が大事 				